

閉鎖の熱田神宮能楽殿



コンサートの打ち合わせをする石浦さん(左)、岩田さん(右)ら実行委員会のメンバー

感謝の思い次世代に

市民ら23日コンサート

熱田神宮能楽殿(名古屋市中熱田区)の閉鎖を惜しむ市民らが、今月23日、「ありがとうコンサートin熱田神宮能楽殿」を開く。半世紀余りにわたって「芸(こ)ろ名古屋」を支えてきた能楽殿に感謝するイベント。次代にこの記憶をつなぎたいと、施設の子どもたちを招待する考えだ。

無償出演の顔ぶれ多彩

中心になっているのはボランティアの市民ら。「能楽殿は古くから、たしなみやけいこ事を大切にしていた名古屋文化のシンボリックな存在で、閉鎖はその否定につながる。何か自分たちにできることはないだろうか」。堀川周辺の美化に取り組む市民グループの事務長・石浦薫さん(57)(西区在住)の呼びかけに十数人の仲間が応え、無料コンサート開催のための実行委員会を発足させた。

実行委員がツテをたどって掛け合った結果、コンサートには、江南市出身の盲目のバイオリニスト安藤正太郎さんを始め、バリ舞踊のグループ、スカル・サリ、ガムランのスアラ・スクマ、アフリカ・ギニアのバンド「タムタム ヤポネシア」のメンバー、オカリナ奏者の北川清隆さんらがボランティアで参加。司会も東京、大阪を本拠とするパ・ソナリティーの神田亜紀さんが担当するなど、多彩な顔ぶれがそろった。

「皆さんが喜んで無償出演に応じて下さった。子どもたちに思いを伝えたいという我々の趣旨への賛同に加え、熱田神宮が全国区の存在であることを改めて実感した」と石浦さん。

当初は閉鎖反対のための署名活動なども考えていたが、「敵対するのではなく、市民にとって大切な存在なのだということを伝えたい」という。委員の一人、岩田雅代さん(熱田区)も「人を動かすのは愛情しかない」と力をこめる。

コンサートは午前10時から午後1時からの2回。実行委員が一人1万円ずつ施設使用料を負担し、後は寄付金を募って、市内の児童施設に暮らす小学生約50人を招待する。問い合わせは同実行委員会(☎052・681・3155)へ。